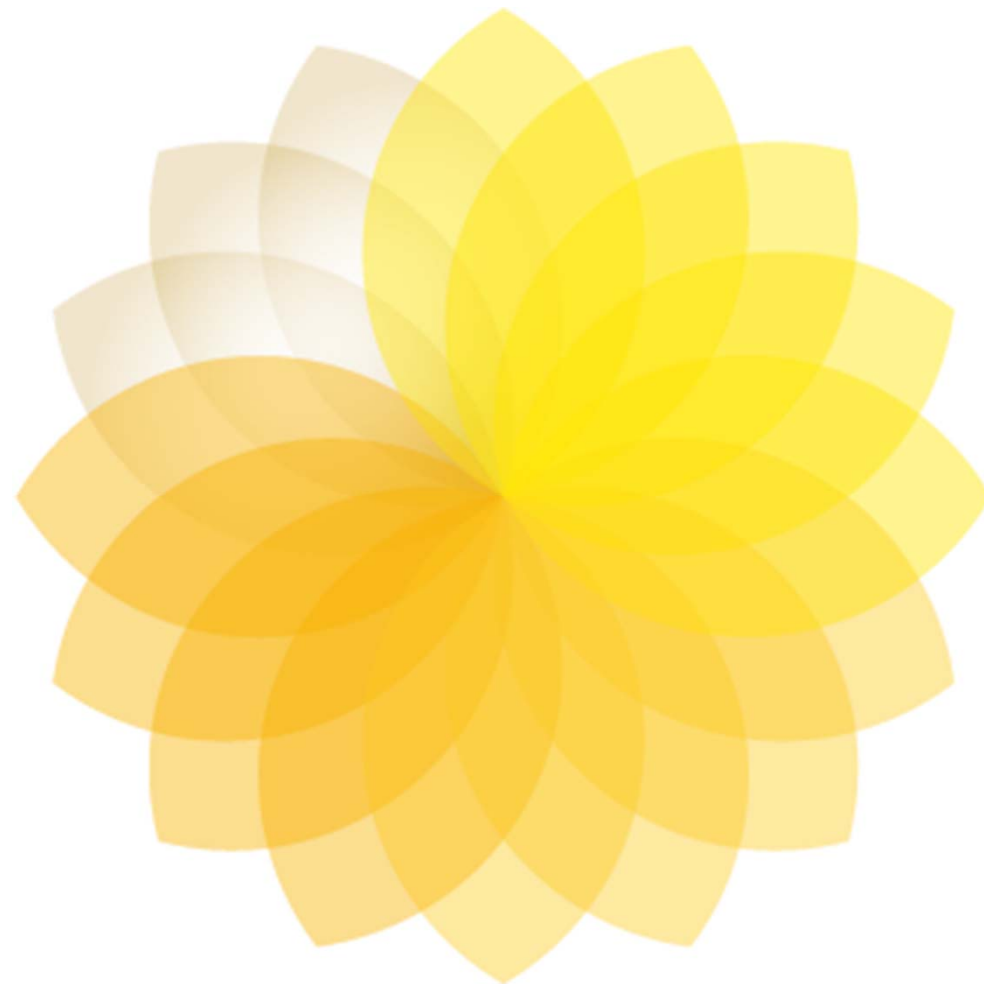


2019年3月期 決算説明会資料

2019年6月6日



- 1. 2019年3月期 連結決算のご説明** **P.3**
- 2. 2020年3月期 業績見込みについて** **P.8**
- 3. 経営計画「REACT1000」の総括** **P.15**

1. 2019年3月期 連結決算のご説明

業績の概要（前期比較）



連結

売上高は過去最高、利益は全て歴代2位

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	前期比増減	
			金額	増減率 (%)
売上高	56,955	59,574	2,619	4.6
営業利益	5,053	4,341	△712	△14.1
経常利益	4,725	4,175	△550	△11.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,351	2,581	△770	△23.0

増収 **売上高** : 機能材料セグメントのIT・電子材料用途など高付加価値品が顕著に伸長

減益 **営業利益** : ライフサイエンス事業をはじめ、今後の安定成長に向けた研究開発促進・強化のための費用がかさんだことから減益

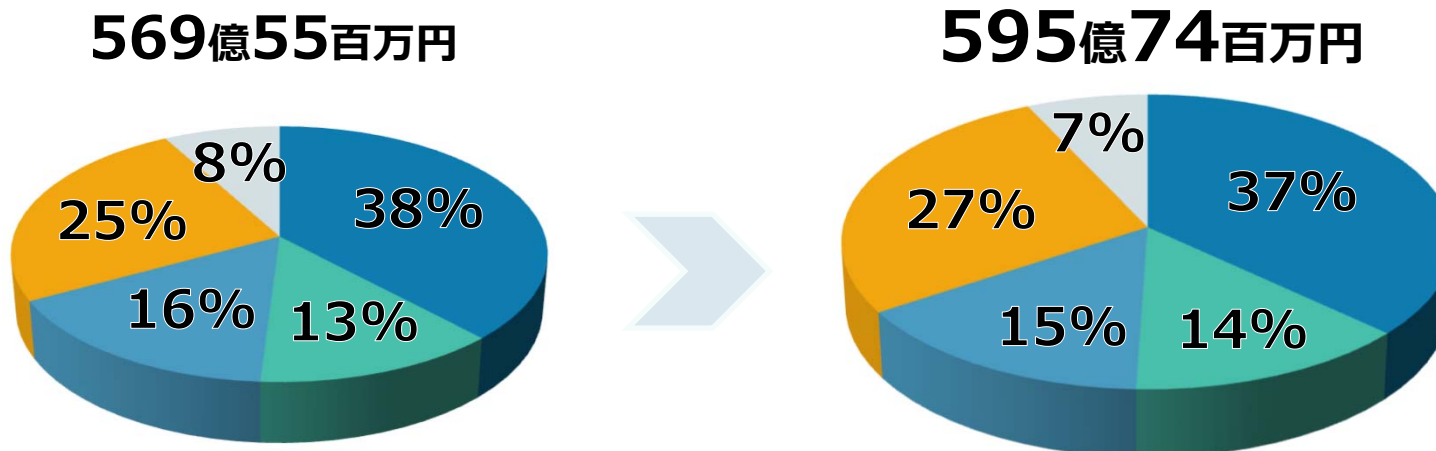
減益 **経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益** : 営業外収支は改善するも、前期は不動産売却益が発生したことから大幅な減益

セグメント別構成比の推移

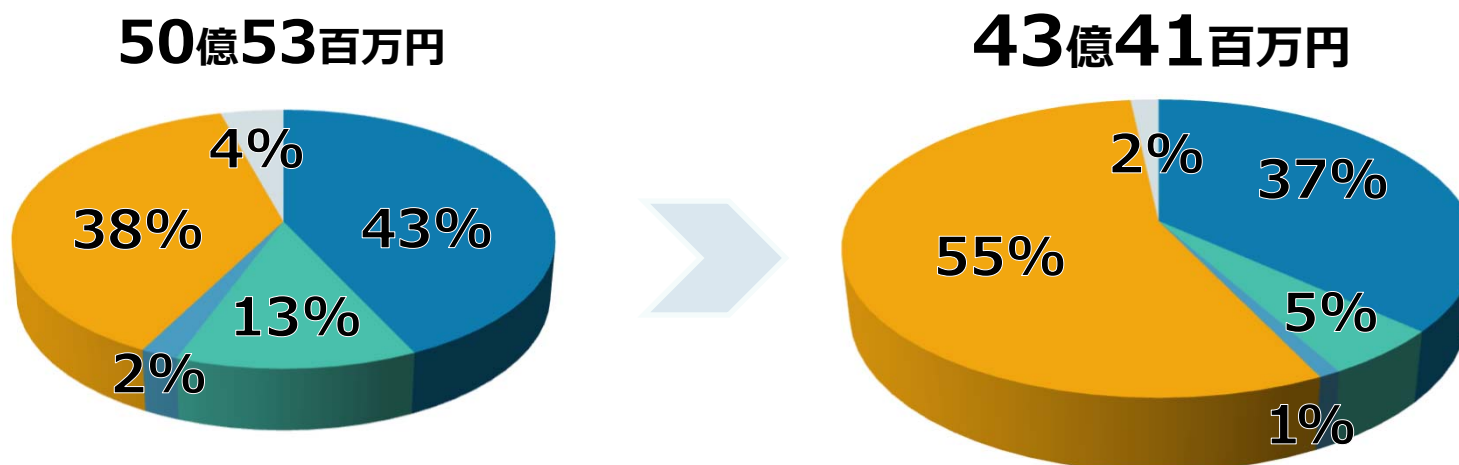
連結

■ 界面活性剤 ■ アメニティ材料 ■ ウレタン材料 ■ 機能材料 ■ 電子デバイス材料

売上高



営業利益



2018年3月期

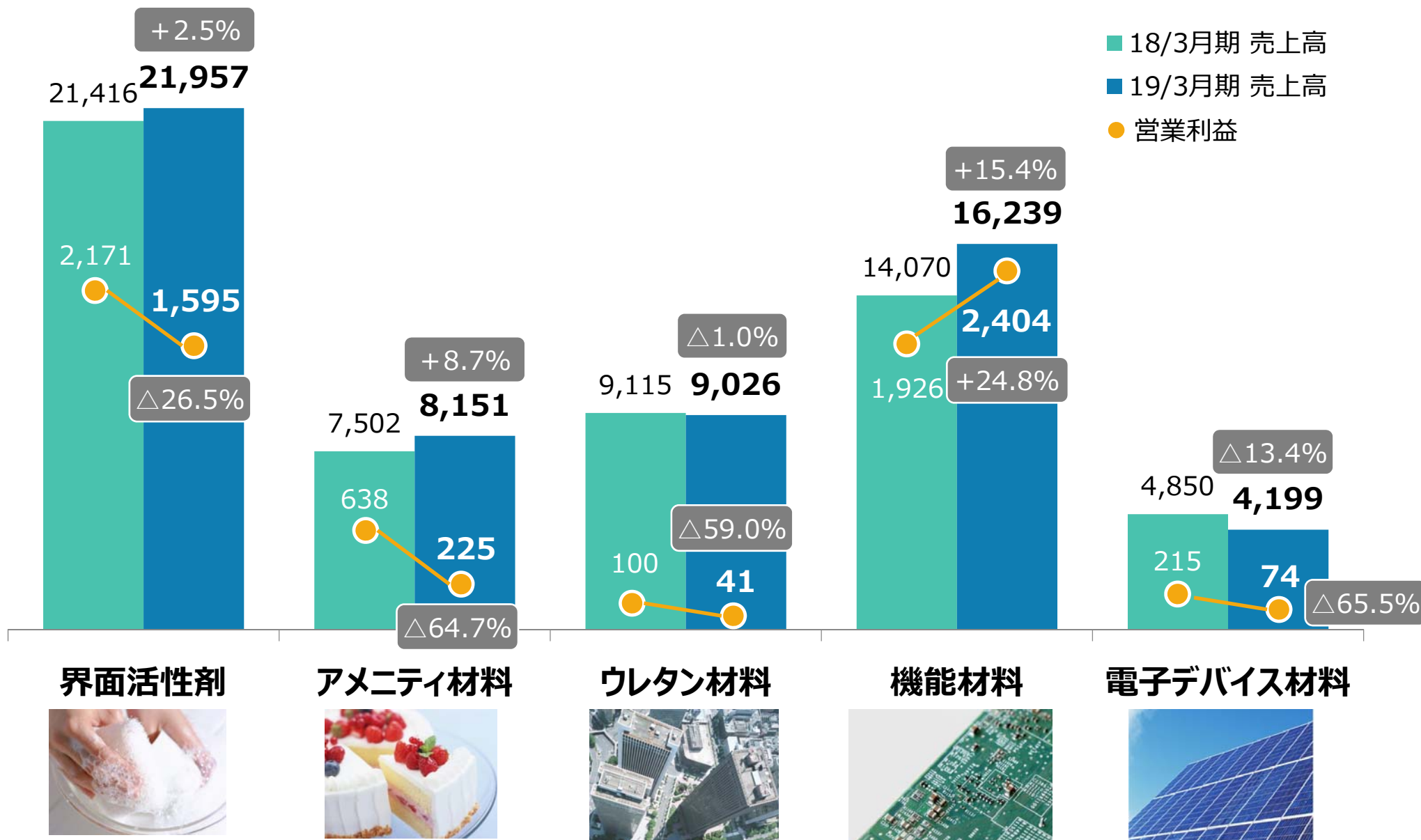
2019年3月期

セグメント業績



(百万円)

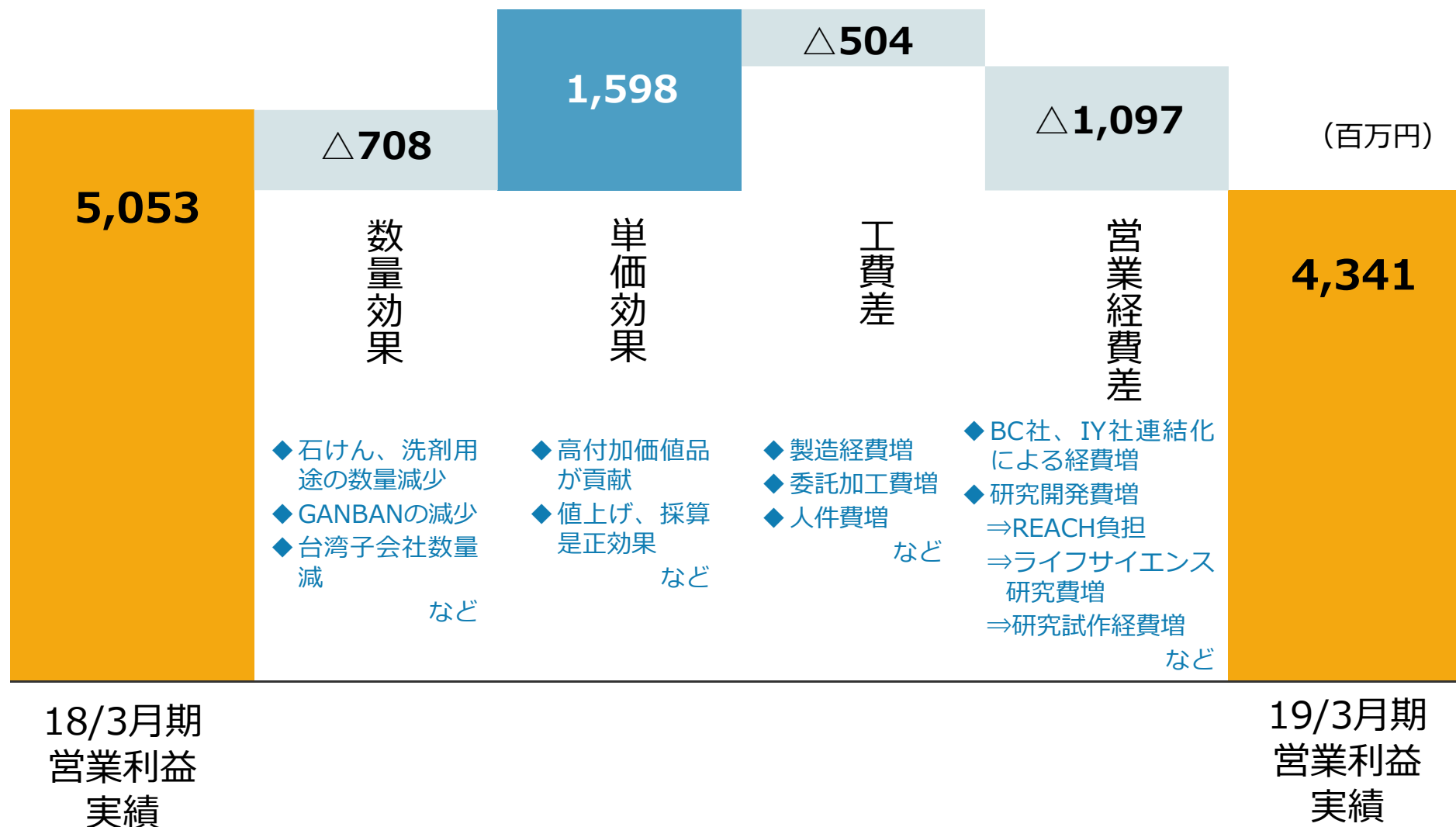
- 18/3月期 売上高
- 19/3月期 売上高
- 営業利益



<ご参考> 2019年3月期 営業利益増減分析



連結



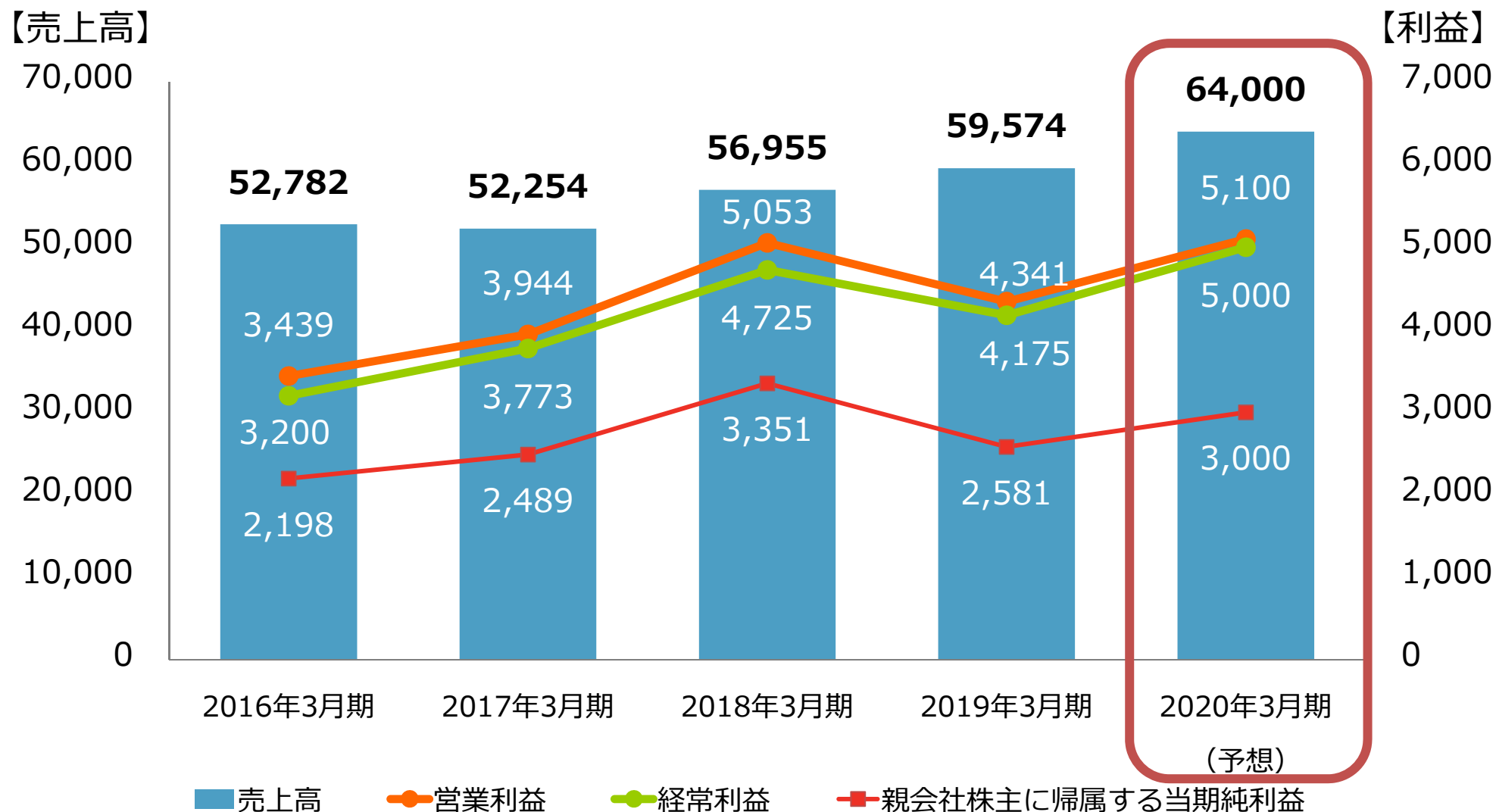
2. 2020年3月期 業績見込みについて

連結業績推移および予想



連結

(百万円)



業績予想の前提



	2018年3月期（実績）		2019年3月期（実績）		2020年3月期 予想
	上半期	下半期	上半期	下半期	
国産ナフサ	37,600円	46,250円	51,100円	47,600円	48,000円
外貨:ドル	112円	106円	113円	111円	111円
外貨:ユーロ	132円	130円	132円	124円	127円
外貨:人民元	16円	16円	16円	16円	16円

※国産ナフサの実績値については、上半期2Q~3Q(4~9月)実績の平均、下半期は4Q~1Q(10~3月)実績の平均としている
為替の実績値については、上半期を9月末、下半期を3月末の仲値としている。

マクロ環境サマリ

- 日本は、企業の堅調な設備投資や個人消費増により、緩やかな回復基調が継続。
- 今後、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等が懸念され、成長率鈍化の見通し。

セグメント別売上高予想



連結

単位：百万円

セグメント	2019年3月期（実績）				2020年3月期（予想）				前期比増減	
	上半期	下半期	通期	構成比（%）	上半期	下半期	通期	構成比（%）	金額	増減率（%）
界面活性剤	10,699	11,258	21,957	37	10,437	10,888	21,325	33	△ 632	△ 3
アメニティ材料	4,007	4,144	8,151	14	4,235	4,370	8,605	13	454	6
ウレタン材料	4,642	4,384	9,026	15	4,654	4,743	9,397	15	371	4
機能材料	7,958	8,281	16,239	27	9,412	10,341	19,753	31	3,514	22
電子デバイス材料	2,131	2,068	4,199	7	2,262	2,658	4,920	8	721	17
合 計	29,438	30,136	59,574	100	31,000	33,000	64,000	100	4,426	7

セグメント別営業利益予想



連結

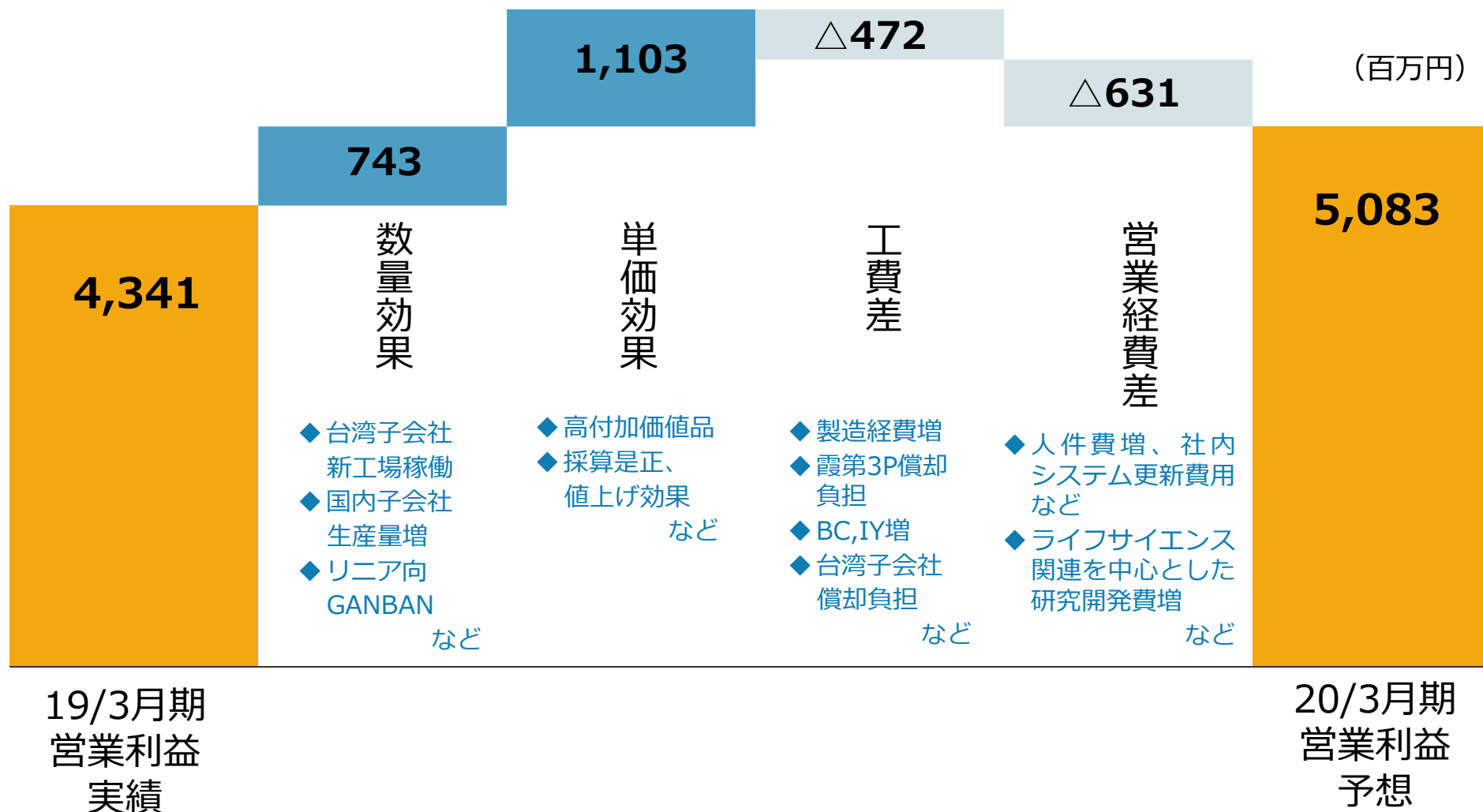
単位：百万円

セグメント	2019年3月期（実績）				2020年3月期（予想）				前期比増減	
	上半期	下半期	通期	構成比（%）	上半期	下半期	通期	構成比（%）	金額	増減率（%）
界面活性剤	730	865	1,595	37	715	917	1,632	32	37	2
アメニティ材料	124	101	225	5	63	148	211	4	△ 14	△ 6
ウレタン材料	△ 3	44	41	1	148	152	300	6	259	632
機能材料	1,189	1,215	2,404	55	1,148	1,458	2,606	51	202	8
電子デバイス材料	23	51	74	2	117	217	334	7	260	351
合 計	2,063	2,278	4,341	100	2,191	2,892	5,083	100	742	17

2020年3月期 営業利益予想増減分析



連結



増益要素

1. 基板材料などの高付加価値品の売上増
2. リニア向けGANBAN
3. 難燃剤の値上げ（15%の値上げ打ち出し済）
4. 国産ナフサ価格
5. 機能性PU製品の立ち上がり（霞工場第3プラント6月完成）
6. 全セグメントにおける採算是正、値上げの加速

減益要素

1. 設備投資増（霞工場第4プラント8月着工、吉備工場整備など）
2. 研究開発費増（ライフサイエンスなど将来への投資）
3. 償却負担増

3. 経営計画「REACT1000」の総括

1000への挑戦

持続的な利益長を目指しつつ 総資産、売上高1,000億円基盤作りに挑戦

変化への耐性強化



新研究所建設
執行役員制導入
統合事業部制試行

損益構造の挑戦



新株公募増資
ストックオプション導入
労使共同宣言

収益を伴う拡大

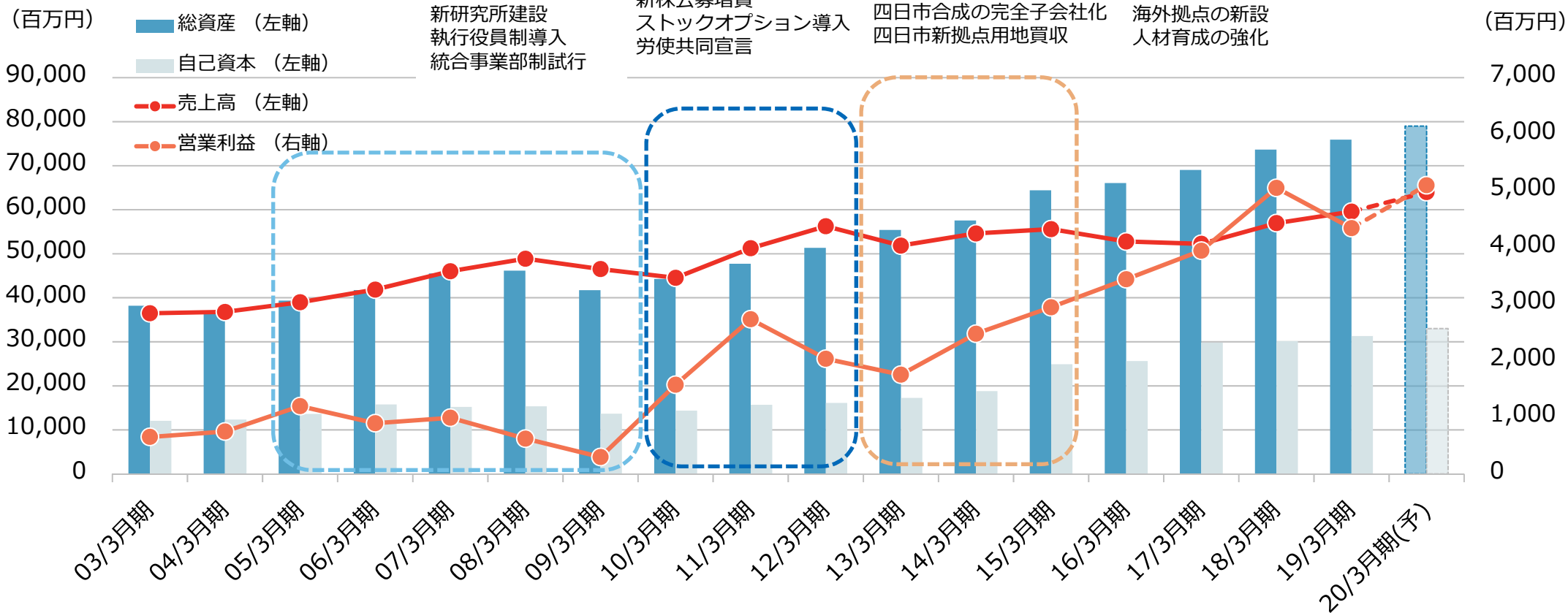


経営と執行の分離
四日市合成の完全子会社化
四日市新拠点用地買収

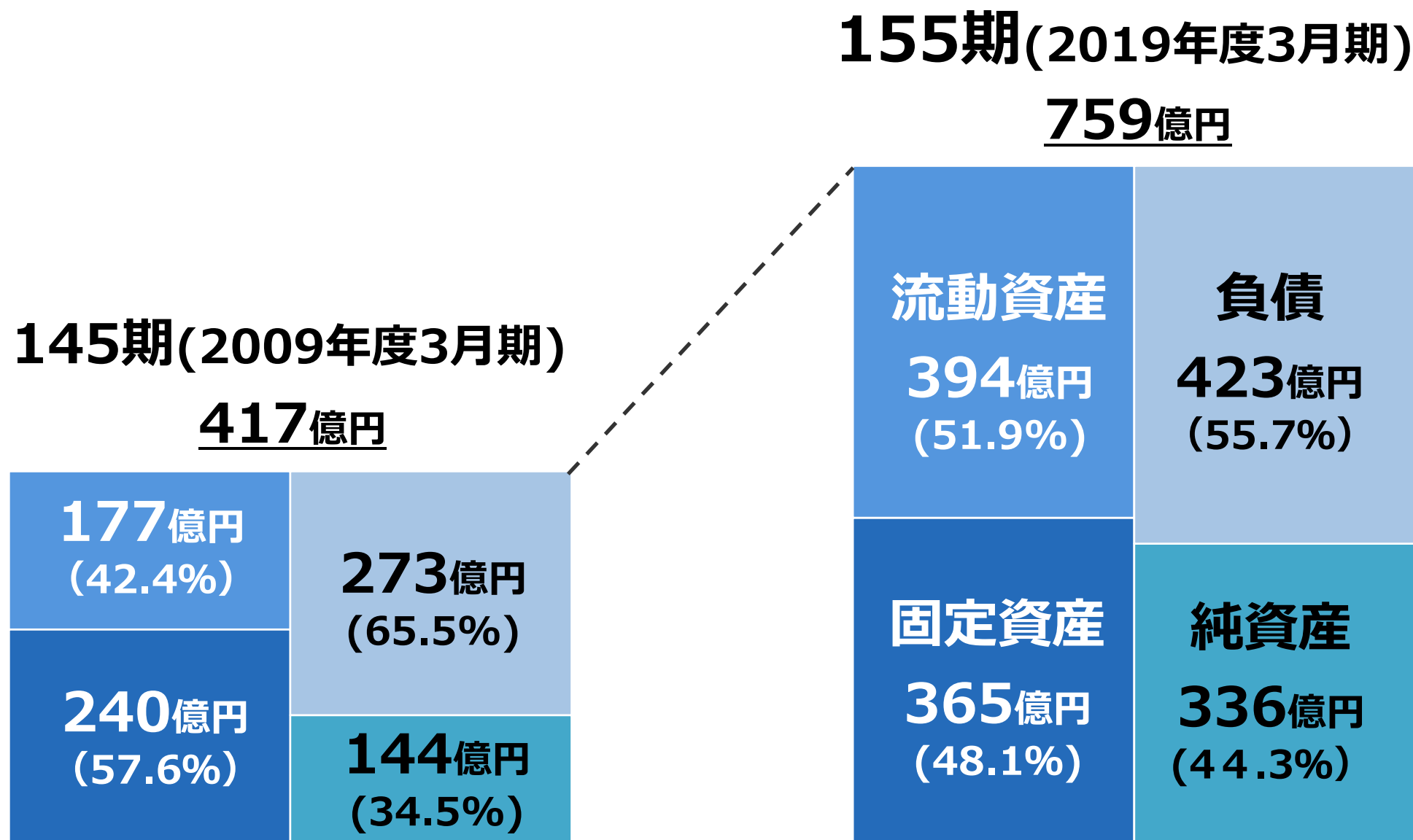
めざせ、ユニ・トップ



霞工場の始動
海外拠点の新設
人材育成の強化

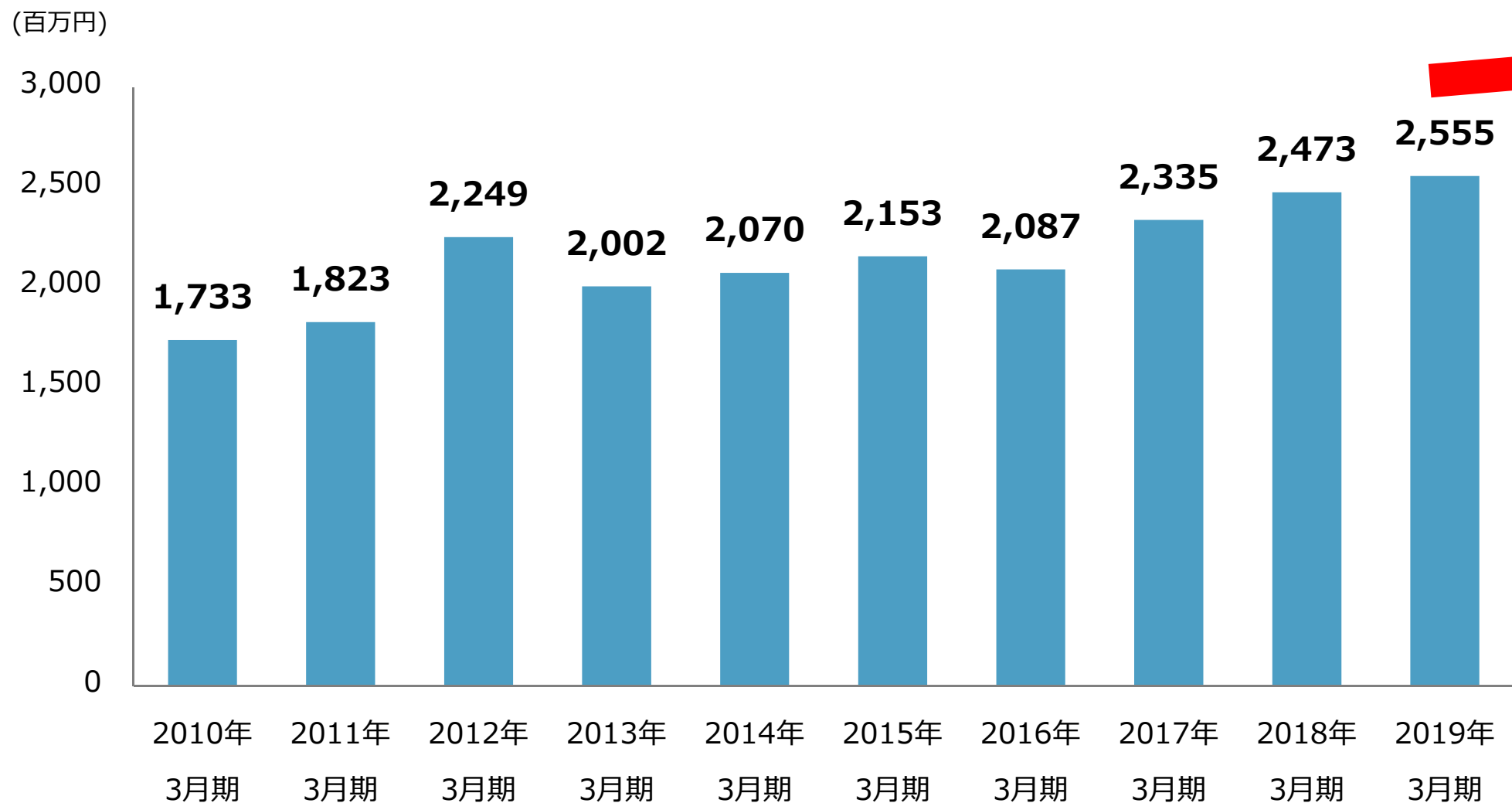


貸借対照表 10年間の変化



減価償却費の推移

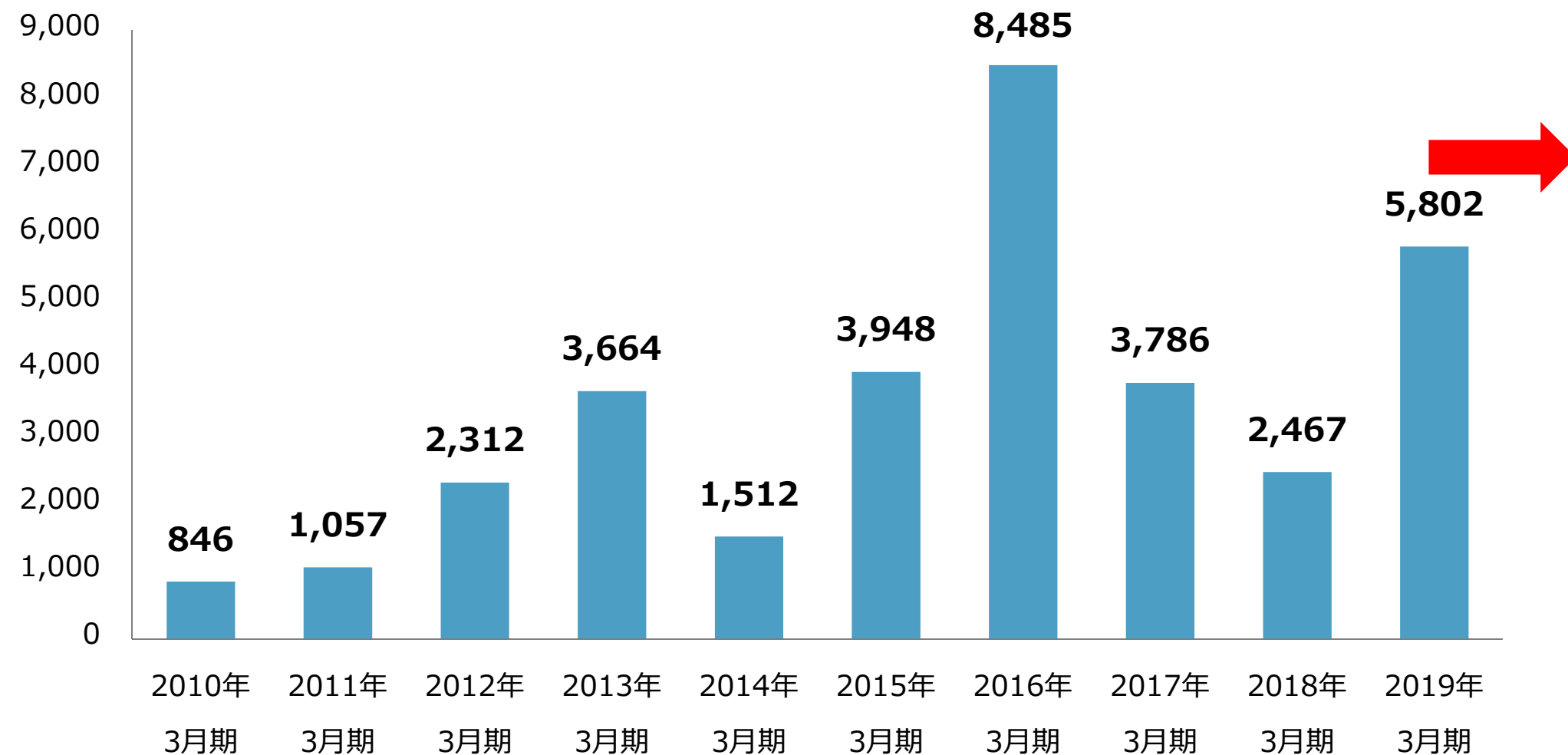
連結



設備投資額の推移

連結

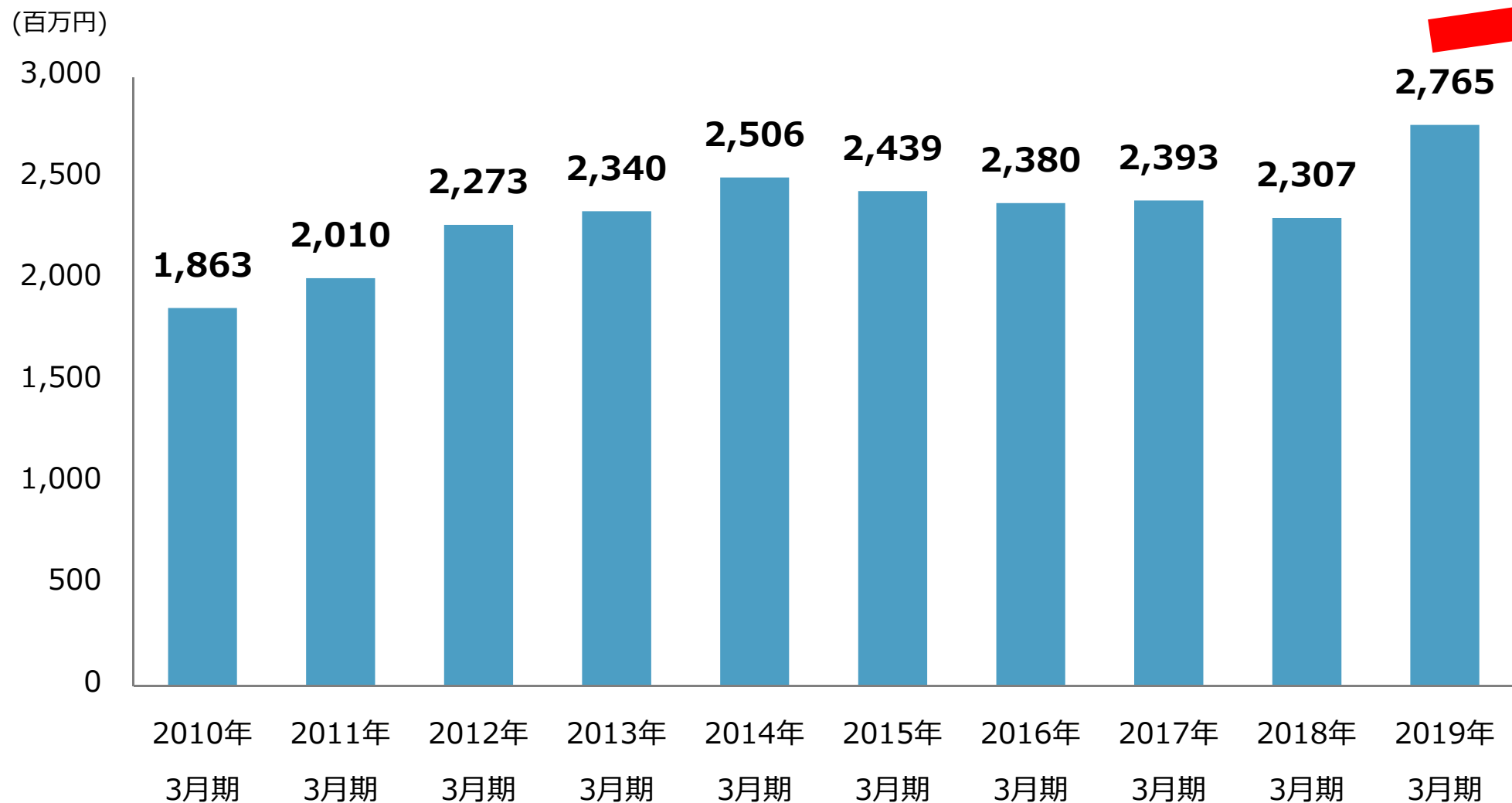
(百万円)



研究開発費の推移



連結



5カ年経営計画「REACT1000」の振り返り



	社員	株主	顧客	社会
(RETURN) R (還元)	貢献への対応	1000への PER・PBR	アクティブ・ パートナー	経済の好循環
(EXPORT) E (海外)	海外経験者の 採用	統合事業報告書	マーケット開発	マザー工場
(ADVANCE) A (前進)	アクチャル 100×6	赤字事業撤退	ドリーム 100×6	ブランド
(CREATE) C (創出)	ネクスト 100×6	割安株から 成長株	特命外交	地方創生
(TRAIN) T (育成)	人材鍛錬	社外役員会議	IT販促	出前授業

政策的保有株式

業績に直接・間接に貢献する持ち合い

役員独立性

取引関係でなく、人物の見識が第一義

マネジメント体制

少数精鋭による意思決定の迅速化

取締役会の実効性

社外役員の現場巡回と社外役員会議の充実

キャッシュ配分

配当性向45%目標ながら、成長投資優先

役員報酬

社内規定に沿い、社外へ開示

後継者

企業の独自性を勘案した社長の専決事項

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が
計画、予測したものであります。
実際の業績などは、今後のさまざまな条件、要素によりこの計画などとは異なる
場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

第一工業製薬株式会社 広報IR部
E-mail: d-ir@dks-web.co.jp